

信楽焼

【産地組合】信楽陶器工業協同組合

（産地紹介）

信楽焼は、742年（天平14年）に聖武天皇が紫香楽宮を造営された頃より、須恵器、土師器の流れを汲んだやきものづくりがされたのが原点といわれて、日本六古窯の1つに数えられています。その後、壺、甕、擂鉢など生活の道具としてのやきものが作られ、技術・技法の進歩とともに、茶道具や壺、鉢、徳利、土瓶などが生産されるようになりました。時代の変遷とともに、



に、火鉢・植木鉢・傘立とヒット商品を生産しながら、それぞれの時代にあったやきものを開発してきました。現在、異素材との組み合わせによる商品開発や、生産において排出される使用原料のリサイクル工程の確立に向けて取り組んでいます。大物から食卓用品まで伝統的な技法を生かしながら、陶器の素材感を追求した新しい商品づくりに日々挑戦し続けています。

陶土の特性を生かした大物陶器が多く作られています。登り窯や穴窯を使って焼くため、窯の中で素地の表面に、燃えた薪の灰が付いて溶け釉薬（ゆうやく）の役割りを果たす自然釉（しぜんゆう）や、陶器の表面に現れる「火色」と呼ばれるほんのりと赤い自然模様、粘土に含まれる長石・珪石等の粒が焼きはぜて、素地の表面から吹き出し、白い粒を点在させる「石はぜ」等の特徴があります。素朴な土の味わいがポイントです。

（トピック）

- ・ 信楽焼のPRに役立てようと、信楽陶器まつり実行委員会が、信楽焼の新しいキャラクターを作りました。信楽焼のタヌキそのままの着ぐるみで、名前は「匠ポン山（たくみぼんざん）」君といいます。毎年恒例の信楽陶器まつりなど観光イベントを盛り上げます。